

備前市 事務事業 評価表

事務事業名	農業生産基盤維持事業	コード	担当課	農林振興課 管理係
		04-01-01-09	担当者	榎野 康子
事業実施期間	昭和62年度～平成33年度			
	大項目	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり		
総合計画事業（政策）体系	中項目	豊かな食を支えるまちづくり		
	小項目	農業		
	施策	農業基盤の整備		
		電話	0869-64-1831（内線233）	

事業について	
目的	ため池等の老朽化した農業施設を再整備して、受益農業者の営農力を高め、より良い環境で就労でき、農作物等の収穫量・品質の向上に生かすため。
対象（誰のために）	農業振興地域内の受益農業者
内容	老朽化等により機能が低下したため池等を、受益農業者から負担金を徴収することで再整備し農作物等の収穫量を向上させたり、水害等の災害からも市民を守っている。

事業の結果							
実施項目	17年度						
	回数など	(単位)	回数など	(単位)	回数など	(単位)	
ため池借入数	47	個	戸数		戸数		
利用ため池数	273.0	個	ha		ha		
事業費 (単位：千円)	事業費	財源	事業費	財源	事業費	財源	
	直接事業費	53,136	国県補助金	44,165	直接事業費		国県補助金
	人件費	2,684	受益者負担	100	人件費		受益者負担
			市債	0			市債
合計	55,820	一般財源等	11,555	合計	0	一般財源等	0
必要人員	0.30	人		人		人	
結果指標①	結果指標名	ため池借入数					
	結果指標量	47					
	単位	個					
	対前年比	#REF!					
	事業費	55,820,000 円					
単位当たりコスト①	1,187,660 円						
結果指標②	結果指標名	利用ため池数					
	結果指標量	273.0					
	単位	個					
	対前年比	#REF!					
	事業費	55,820,000 円					
単位当たりコスト②	204,469 円						

事業の成果			
成果指標名	受益者に負担金を納付してもらうことで、農業施設整備が整い農作物の収穫量も増える。	式又は説明	受益面積/受益者人数
	17年度		
成果指標量	17		
対前年比	#REF!		
到達目標値	100.0	到達目標年度	平成33年度

事務事業の評価		(平成17年度事業)
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 関係法令等： 備前市土地改良事業等分担金徴収条例
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
効率性の評価	コストの効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の見解・要望が反映されやすい
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある
	市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている
課題認識	農業施設（ため池・水路・農道等）の老朽化等に伴い農作物や災害への心配もあり、地元関係者からの要望も高く、防災面からの必要性も高い。ただし、財政面からみると、ため池等の利用頻度等から優先順位をつけて実施していく。	
事業費の増加に関しては、農業施設等の再整備を少なくし、国・県からの補助が増えない限り減少することはない。代替の民間委託については、土地改良事業が市の助成によって成り立っているため、委託は無理である。		
国・県営事業の農業整備も滞りなく進んでおり、農業受益者からの納付、償還事務等についても効率よく進んでいる。しかし、ため池等を利用し耕作する受益者の減少により、改修等にかかる負担金の支払が難しくなると思われる。		

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

総合評価		評価区分	<A~E>
コメント	農業整備等にかかる負担金は、高い農業生産や災害に強いまちをつくる上で重要な事業であり、これからも継続していく必要がある。ただし、財政的に長期的な負担を強い事業なため、施設整備の優先順位をつけて実施していく必要がある。		B

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合			
翌年度	結果指標量①	56	結果指標量②	275
目標値	成果指標量			

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果